

平成21年10月29日

小和田牧野農業協同組合 霧ヶ峰再開発チーム今後の活動について

『霧ヶ峰蛙原花畑再生に向けての在来植生復元への取り組み』

～牧草地を花畑に変える挑戦～

霧ヶ峰の自然は地域の人々の手によって昔から守り継がれてきている。現在の草原も周辺集落の人による採草や野焼きをし、農民が手を入れ継続した取り組みをしてきたから美しい半自然草原となったのである。霧ヶ峰自然環境保全協議会（通称「霧ヶ峰みらい協議会」）の基本計画の冒頭に「100年後の子孫に美しい霧ヶ峰を手渡すため・・・」に取りまとめたものであると述べている。

我々霧ヶ峰再開発チームも、

- ①霧ヶ峰高原は自然とふれあうことのできる雄大な場所。我々の手で子孫に残していかなくてはならない。
- ②この霧ヶ峰を今後どうしていくのか、どうなってゆけばよいのかといった方向性をきちんと見定めていかなくてはならない。
- ③地元の方の霧ヶ峰に対する期待に答えられる思いと、熱意にどう答えるべきか小さな一歩ではあるが具体的な取り組みから始めなくてはならない。
- ④保護、または手を加えるといった問題については、将来の霧ヶ峰の姿を思い浮かべながら確固とした方向性を持ち、進めていかなくてはならない。

以上の点をふまえ、小和田牧野農業協同組合『霧ヶ峰再開発チーム』を具体的に立ち上げ取り組みを始めた。

○小和田牧野農業協同組合 霧ヶ峰再開発チームの目的

小和田牧野農業協同組合の経営の中核でもある霧ヶ峰の再開発について審議検討し、役員会に提案すると同時に再開発の作業の指導実施を担当する。

○再開発チーム発足の経過

平成19年7月に「小和田牧野農業協同組合経営委員会」にて承認される。

〃19年10月に立ち上げ、平成20年3月30日の定例総会にて承認され具体的な活動がスタートする。

○今までの活動経過

【平成19年度】

- ① 10月 霧ヶ峰地権者各種団体の許可を得て種の採取及び蛙原草原牧草地耕作作業

を行う。耕地面積は、約60平方メートル位を試験的に耕す。

【平成20年度】

- ① 4月 牧草地の耕作。
- ③ 5月4日 蛙原草原地域内の牧草地の耕作整備を行いマツムシソウ他の種蒔きを行う。
- ④ 7月1日 マツムシソウ他の種蒔き後の生育状況を確認する。一部の発芽を確認するが全体の成長はあまり見られない。
- ⑤ 7月20日 前回と違い、草花の生育はおおむね順調で多くの草花が数センチに伸び、ユウガギク、アキノニリソウ、も小さな芽を出していた。ヤナギラン、オミナエシは鹿の食害が特に目立ち、今後の対策を考慮する必要がある。参加者全員による雑草の除去作業をする。
- ⑥ 9月13日 ヤナギラン、ニッコウキスゲ、ヨツバヒヨドリ、アザミ、ワレモコウの5種類の種の採取を行う。種の種類、採取量については今秋種蒔き時に検討することにした。
- ⑦ 10月5日 前回採取した種を、種類別に種蒔きを行う。牧草が密集し根の張りが強く耕すのに苦戦を強いられた。
- ⑧ 10月26日 今回は初めて小型トラクターにての牧草除去作業をし、よく耕し再度5種類の種を蒔き年度の活動を終える。(約800平方メートル)

【平成21年度】

- ① 5月16日 花畑鹿除けネット測量作業実施。(ネットの長さ・杭の本数・方法等)
- ② 6月16日 霧ヶ峰再開発チーム打ち合わせ会実施。(1回)。花畑鹿除けネット張り作業について具体的内容の検討を行う。
- ③ 6月20日 花畑鹿除け防護ネット張り作業実施。ニホンシカ除けの防護ネット張りを、組合員・再開発メンバー計40名参加して花畑の周りに長さ2メートルの杭を60本打ち込み花畑を囲み、ネットを延長約300メートル張った。面積にして約800平方メートルで試行する。また、新たに約800平方メートルの牧草地を小型トラクターで牧草除去作業をする。近年手つかずでいた広大な牧草地のうちの一部を今後さらに少しずつ耕し草花の種をまき鹿除けネットを張って花を育てたい。
- ④ 7月17日 役員による花畑も見回りをする。生育状況の確認をし、マツムシソウ、ヤナギラン、ノアザミ、アキノキリンソウ等の発芽がみられる。
- ⑤ 8月23日 //
- ⑥ 8月26日 霧ヶ峰再開発チーム及び組合員による草花種子採取作業一回目を実施する。主に、オミナエシ、ヤナギラン、野アザミ等の種を採取する。
- ⑦ 9月4日 霧ヶ峰再開発チーム打ち合わせ会実施。(2回) 特に関係諸団体への働きかけと今後の展望について話し合った。

- ⑧ 9月9日 関係諸団体との花畑の視察を行う。具体的取り組みを、実際に見ていたき今後の進め方等について指導をいただく。(関係諸団体として、県環境課・県霧ヶ峰自然保護センター職員等)
- ⑨ 9月27日 霧ヶ峰再開発チーム及び組合員による草花種子採取作業2回目を実施する。主に、マツムシソウ、ノアザミ、アキノキリンソウ、ワレモコウ等の種を採取する。
- ⑩ 10月13日 霧ヶ峰再開発チーム打ち合わせ会(3回)牧草地の植生復元を目指した『霧ヶ峰蛙原花畑再生』に向けての取り組みに対しての支援をしていただく方向での対応についての協議。(諏訪市・県へ)
- ⑪ 10月18日 霧ヶ峰再開発チーム及び組合員による採取した種を新しく耕作した花畑に蒔く作業を実施する。また、鹿除けネットを張った花畑の中の草刈り作業も行う。

今後、発芽、生育、生長過程における専門家を交えて(長野県諏訪地方事務所環境課・霧ヶ峰自然保護センター職員)の指導を仰ぎ、霧ヶ峰蛙原牧草地を美しい草花が咲き見られ多くの方々の目を楽しませてくれ霧ヶ峰高原の魅力をさらに高められるよう夢の実現に向けて挑戦を進めていきたい。

○牧草地における在来植生復元を目指しての展望

霧ヶ峰は、採草や火入れによって維持されてきた半自然草原と人工草地からなっている草原植生が卓越し、凹状地には、八島ヶ原湿原や踊り場湿原等の高層湿原が発達するなど、特徴的な自然景観を呈している。また、ニッコウキスゲ等の草花の群生地としても知られ、毎年開花期には多くの観光客が訪れる。しかし、近年、草原への樹木の侵入や既存樹林の拡大による草原景観の変容が危惧されるほか、さらに、1990年(平成2年)以降、ニホンシカによる草原植物の被食が懸念されるようになってきたのは大きな問題でもある。ニホンシカ被害が深刻化したのは、平成に入った頃からである。原因として、狩猟者の減少や生息環境の面で森林が成熟し階層構造が発達し、下層植生が繁茂して餌資源とするニホンシカにとってみれば、餌資源が増加したといえる。森林と草地を行き来するニホンシカにとっては好適な環境といえる。また、野生獣類を監視する目も減少したり耕作放棄地や公共牧場の増加で草原的環境も増え、ニホンシカにとって生息に適したこの上ない環境が整備されたともいえる。しかし、自生していたマツムシソウやヤナギラン・ニッコウキスゲ・ワレモコウ・アキノキリンソウ・リンドウ・オミナエシ等の草花で一杯にしようとする取り組みも、部分的な発芽を確認するなりニホンシカに新芽を食べられてしまい生育を絶たれるといった状況が見逃せない事態となり、鹿除けネットを張ることになった。

○ 今後の検討課題と対応

- ① 一番の問題点は、鹿の食害に対する防除をいかにすべきかである。霧ヶ峰再生チームと合同で度重なる検討会議を開き、鹿除け防護ネットを張り防除することと決定する。鹿除けネット張り作業は、今年6月20日（土）霧ヶ峰高原蛙原小和田牧野農業協同組合牧草地（地図参照）約800平方メートルに「鹿除けネット」を張りニホンシカよりお花畑を守るよう具体的活動として試行し今後見守りたい。
- ② 鹿除けネットを今後さらに拡張していくこととなるが、部分的にネットを張り花畑として広げていくように考えているがこの方向で進めることが適当なのか検討が必要である。
- ③ 自然の中に自生し、群生している花（マツムシソウ・ヤナギラン等）をニホンシカの食害から守る為の方策として何をどのように進めていくことが良いか検討中である。現在生息している草花を継続させて生育させるためには、適度に人の手を加え守っていくことも必要である。（自然に自生している草花を守るためにも、将来的には鹿除けネットを部分的に張ることも必要と考えている。）

○ 具体的とりくみと方法

- ① 近年手つかずでいた広大な牧草地のうちの一部を今後さらに少しずつ牧草除去し、耕し、草花の種をまき鹿除けネットを張って花を育てたい。（耕作地の面積を新に約800平方メートル位）
- ② 自生し群生している場所を選定し、霧ヶ峰再生チームで協議・検討し適当と認められたらその場所にも、鹿除けネットを張り巡らす等の対応をしていく方向で考えたい。（鹿除けネットを延長約300メートル位）
- ③ 牧草を除去し耕す作業等に必要な機材はできるだけリース業者から借り作業を行う。（小型トラクター・バックフォー等の機材はリース会社から借用）
- ④ 作業は、再生チームメンバーや組合員が中心となるが、必要に応じて広く呼び掛け各種団体にも協力をしていただくようにする。ボランティアで耕作等の作業に協力していただいた方には、将来的展望の上に立って「花畑観賞フリーパス」券等の配布も考えていきたい。

以上

【連絡先】

小和田牧野農業協同組合

組合長 藤森 順三

事務所 〒392-0007

諏訪市清水3-3619-10

Tel 0266-57-5161

（組合長携帯 090-3564-1486）

平成21年度 霧ヶ峰お花畑再開発 活動状況

◎ 6月20日(土) お花畑800㎡をネットで囲う(鹿対策)
ネット張り作業



完成したお花畑



6月20日 50本のヤナギランを移植する



ヤナギランの花



◎ 第1回花の種取8月26日(水)



逢沢先生を先頭に種取

昨年蒔いた マツムシソウの1年生(来年花が咲く)



あちこちに マツムシソウの子が出来てきている

◎第2回種取及び種蒔き 9月12日 (9/12雨の為変更 9/27実施)

マツムシソウの種

種蒔き作業



秋の麒麟ソウの種



ニッコウキスゲの種 (78)



◎ 第3回種蒔き及び草刈作業 10月18日(日)



霧ヶ峰自然保護センター 逢沢先生より種の蒔く時期や

- ・ 草を刈る時期、移植する時期について説明を受ける
- ・ 草刈はヒメスイバの種が落ちる前10月初旬頃が良い
- ・ マツムシソウは2年目に花を付ける
越年草といい
1年目は葉を大きく広げ自分の範囲を広く、
日の光を受けやすくし、2年目に花をつける

和田牧野農業協同組合

草花火田

1.000

